

内装下地

ここでの監理者の心構え

内装下地が悪いと、仕上げたあとから手直しということが発生する。ユーザーにとっては、仕上げの状態が最大の関心であるが、それを左右するのが、この下地の状況ということになる。引渡し時には、ごまかせても、月日とともに下地の悪さが影響してくる。仕上げと同じように、注意をしながら確認すべきである。

工事名	工期	年	月	日 ()
	監理責任者			

項目	ポイント	✓	チェック項目
内装下地	床 参考写真①～⑤	<input type="checkbox"/>	製品ごとの床暖房の仕様と施工方法確認
		<input type="checkbox"/>	ムクフローリングを張る場合は、柱や間柱などとクリアランスを5～10mm程度確保する方が良い
	壁 参考写真⑥～⑯	<input type="checkbox"/>	石膏ボードの釘間隔 (クロス下地の場合、ボード周辺部を150mmピッチ、中間部を200mmピッチ)確認
		<input type="checkbox"/>	塗り壁仕上げの場合、開口部の4隅に石膏ボードのジョイントがくると割れやすいので、割付けに注意を払う (ビスのピッチも100mmピッチの場合がある)
		<input type="checkbox"/>	大きな絵画などの重量物を壁に掛ける場合は下地の補強を行う
		<input type="checkbox"/>	タオル掛け、トイレトペーパーホルダーの下地補強が忘れずに行われているか
		<input type="checkbox"/>	塗装仕上げの場合は、クロス仕上げの場合に比べてより平滑性が問われるので注意して確認
	階段 参考写真⑰～⑳	<input type="checkbox"/>	手摺部分の下地が施工されているか
		<input type="checkbox"/>	複雑な踊場の納まりは適切か
		<input type="checkbox"/>	階段下地は、柱・間柱にボルトなどでしっかりと固定されているか
		<input type="checkbox"/>	フットライトの位置は適切か (原則的に昇り口と降り口に取り付ける 折返し階段の場合には中間に1つ)
		<input type="checkbox"/>	蹴上げ高さ・踏み面寸法、階段幅が図面どおりか
		<input type="checkbox"/>	段板に滑り止め対策(ノンスリップ)が施されているか
		<input type="checkbox"/>	階段廻りの幅木の見せ方、特に幅木の先端をどこにするのか
		<input type="checkbox"/>	階段、蹴込み板、側桁の納まり (小口の見せ方など)が図面どおりか
		<input type="checkbox"/>	鉄骨階段や手摺りなど、仕様通り納まるか

項目	ポイント	✓	チェック項目
内装下地	天井	<input type="checkbox"/>	天井高さ、天井懐を寸法確認
		<input type="checkbox"/>	吊り木が吊り木受けに千鳥で配置されているか
		<input type="checkbox"/>	野縁・野縁受けに傾きがなく、平滑に張られているか
		<input type="checkbox"/>	野縁の間隔が45mm角で455mmピッチ、 40×30mmで303mmピッチで配置されているか
		<input type="checkbox"/>	野縁の継手処理(継手部分を両側から挟みこむ)が適切か
		<input type="checkbox"/>	梁に下地ボードを直付けしないこと 野縁を組んでから、石膏ボードを張る
		<input type="checkbox"/>	石膏ボードの平滑性
		<input type="checkbox"/>	大きな設備(2階に浴室を設置する場合など)を埋め込む場合、 野縁や野縁受けの配置が適切に変更されているか
		<input type="checkbox"/>	鋼製吊り木の場合は、910mm間隔で施工する
		<input type="checkbox"/>	カーテンレールの下地は十分か (両サイドに柱があれば、通常は OK 柱がない部分については下地補強)
		<input type="checkbox"/>	シャンデリアやシーリングファンなどの重量物を吊る場合、 下地の補強が確実にされているかどうか
			参考写真⑳～㉓

メモ